

稲作情報

—稲わらや刈株を秋耕ですき込みましょう—

令和2年8月26日

水稻の収穫作業後、ほ場に稲わら残さや刈株再生芽（ヒコバエ）が残っていることがあります。次年度作に向けて、次の注意事項に該当するほ場は、

すぐに秋耕しましょう。

1. 残さや雑草が多いほ場は還元障害に注意！

- 近年、高温により早くから還元障害が発生し、発生したガスによって稲の根が傷み、株張りが悪くなっているほ場があります。
- 来年の水稲作で、作物残さや雑草などが十分に分解されないまま田植えをすると、還元障害により生育が抑制される場合があります。
- 秋耕で作物残さ等の分解を促進しましょう。



還元障害

2. 刈株再生芽の成熟した籾に注意！

- 刈株再生芽が、出穂しています。このまま放置すると野生獣の冬場のエサになりかねません。
- 特に早生品種で、籾が成熟してしまうと、発芽する場合があります。来年の裸地生えの原因になりますので、速やかにすき込みましょう。混種を防ぐため来年も同じ品種を植えましょう。



出穂し籾が成熟した刈株

3. イネ縞葉枯病の発生に注意！

- 縞葉枯病は、刈株再生芽の葉が黄色く退色し、巻いたり曲がって垂れ下がる症状が特徴です。
- 刈株再生芽は病気の伝染源になるため、速やかにすき込んで下さい。



発病株（左）と健全株（右）